



2024年8月13日

各位

会社名 ナイル株式会社
代表者 代表取締役社長 高橋 飛翔
(コード番号：5618 東証グロース市場)
問合せ先 取締役 コーポレート本部本部長 長澤 斉
(TEL 03-6682-9692)

連結決算への移行に伴う 連結業績予想の公表及び通期単体業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2024年12月期第3四半期決算より、従来の単体決算から連結決算に移行いたします。これに伴い2024年12月期の通期の連結業績予想を下記のとおり公表いたします。

また、2024年8月13日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、2024年2月13日に公表した2024年12月期の業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

1. 連結決算への移行について

当社は、2024年7月18日公表の「株式会社パティオの株式の取得（子会社化）に関するお知らせ」に記載のとおり、株式会社パティオ（以下「パティオ社」といいます）の全株式を取得し子会社化いたしました。これに伴い、2024年第3四半期より連結決算に移行いたします。

当社は、「おトクにマイカー 定額カルモくん」にてオンライン主体での車販売を行っております。パティオ社は、埼玉県に複数店舗を展開し、オフライン主体での車販売を展開しております。当社からパティオ社へのDX支援や、各々の顧客に対する相互の商品ラインナップ販売を通じてオンラインとオフラインが融合し、より強固なビジネスモデルになることを目論み、パティオ社を子会社化することといたしました。

2. 2024年12月期通期連結業績予想数値の公表（2024年1月1日～2024年12月31日）

（単位：百万円）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 連結当期純利益
今回修正予想	5,400～ 5,700	△653～ △583	△713～ △643	△720～ △650	△84.34円～ △76.14円

3. 2024年12月期通期単体業績予想数値の修正（2024年1月1日～2024年12月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	6,150～ 6,450	△470～ △340	△496～ △366	△500～ △370	△58.58円～ △43.35円
今回修正予想（B）	4,900～ 5,200	△662～ △592	△688～ △618	△692～ △622	△81.06円～ △72.86円
増減額（B－A）	△1,250～ △1,250	△192～ △252	△192～ △252	△192～ △252	－
増減率（％）	△20.3%～ △19.3%	－	－	－	－
（参考）前期実績 （2023年12月期）	5,244	△677	△738	△743	△90.48円

4. 修正の理由

ホリゾンタルDX事業（メディア&ソリューション事業）と自動車産業DX事業において、業績を下方に修正すべき要因が発生したため、業績予想の修正をいたしました。事業ごとの主な下方修正理由は以下のとおりです。

① ホリゾンタルDX事業

主力事業であるDX&マーケティング事業においては、サービス提供体制の向上に努め2024年第2四半期累計期間において売上高が797百万円（前年同四半期比24.2%増）と堅調な推移をしております。一方、メディア&ソリューション事業においては、競合の伸長による競争環境の激化により、主に広告関連の売上が減少し、2024年第2四半期累計期間において売上高が469百万円（前年同四半期比33.7%減）と軟調に推移しております。

利益面においては、広告関連の売上が挽回させるための投資を行ってまいりましたが、期待以上の売上高の獲得が出来ず利益悪化に繋がっております。

引き続き、早期の売上及び利益の回復に向けて、メディア&ソリューション事業のテコ入れを継続してまいります。

以上の結果、ホリゾンタルDX事業では前回発表予想より売上高について750百万円の引き下げを行っております。なお、売上高の引き下げに伴い営業利益以下の各段階利益につき前回発表予想から下方修正いたします。

② 自動車産業DX事業

自動車産業DX事業においては、低水準なカスタマーチャーンレートを維持し、月額収益は積み上がっており、2024年第2四半期累計期間における売上高が1,312百万円（前年同四半期5.0%増）となっております。しかし、2023年末に発生したダイハツ社を中心とする自動車メーカーの品質不正問題を考慮し、広告宣伝費を含む販売費及び一般管理費投資の規律的縮減を行ったことで、新規契約獲得数は当初予測に比して軟調に推移しております。

広告宣伝費においては、2024年12月期の当初計画958百万円から704百万円への引き下げを決定しております。また、足元では自動車メーカーの製造再開及び広告採算性の向上に

より、新規契約獲得効率は改善傾向となっております。

以上の結果、自動車産業 DX 事業では前回発表予想より売上高について 500 百万円の引き下げを行っております。なお、営業利益については広告宣伝費の抑制により前回発表予想から変更はありません。

ただし、広告宣伝費の引き下げ分相当でパティオ社の全株式を取得し子会社化したことにより、連結では売上高 500 百万円の積上げと黒字事業を組み込んでおりますので、当セグメントとしては従前予想相当の売上高を計上しています。

5. 業績予想のレンジ形式について

今回の修正予想は、DX&マーケティング事業の需給、メディア&ソリューション事業の復調時期や復調度合い、自動車メーカーの製造再開に伴う納車時期や新規契約獲得の伸長など外部要因に左右される事項も多いためレンジ形式での開示が相応しいと考えております。今後、特定予測値での業績予想の開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

(注) 上記の予想は、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成しており、不確実な要素が含まれ変動する可能性を有しております。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

以上